

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成31年3月14日 (2019.3.14)

【公開番号】特開2018-138217(P2018-138217A)
 【公開日】平成30年9月6日 (2018.9.6)
 【年通号数】公開・登録公報2018-034
 【出願番号】特願2018-94003(P2018-94003)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 0 6 A

【手続補正書】
 【提出日】平成31年1月29日 (2019.1.29)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

上皿に貯留された遊技球を通過口を介して所定の発射位置に送り出す球送りユニットと

、

前記発射位置に送り出された遊技球を遊技領域に向けて一つずつ発射可能な発射部と、

前記発射部により発射された遊技球が通過する発射通路と、

を備えた遊技機であって、

前記球送りユニットには、遊技球に付された線材による不正行為を防止するための金属
 板材が設けられており、

前記金属板材は、直線状の分割線を境にした一方側の板面部である第 1 板面部と、該分
 割線を境にした他方側の板面部である第 2 板面部とを有し、前記第 1 板面部を前記第 2 板
 面部に対して屈曲させて、前記分割線の終点に向かって徐々に狭くなる略 V 字状の隙間が
 前記第 1 板面部と前記第 2 板面部の間に形成されたものであり、

前記通過口は、前記球送りユニットの外面に形成された開口であり、遊技球が通過でき
 る大きさの第 1 開口と、遊技球が通過できない大きさの第 2 開口とが連続して形成されて
 おり、

前記分割線を用いて前記隙間を形成している前記第 1 板面部と前記第 2 板面部のうちの
 屈曲している前記第 1 板面部が、前記第 2 板面部よりも前記発射通路に近くなるように、
 前記球送りユニットに前記金属板材を配置した

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

本発明は、

上皿に貯留された遊技球を通過口を介して所定の発射位置に送り出す球送りユニットと

、

前記発射位置に送り出された遊技球を遊技領域に向けて一つずつ発射可能な発射部と、
前記発射部により発射された遊技球が通過する発射通路と、
を備えた遊技機であって、

前記球送りユニットには、遊技球に付された線材による不正行為を防止するための金属
板材が設けられており、

前記金属板材は、直線状の分割線を境にした一方側の板面部である第１板面部と、該分
割線を境にした他方側の板面部である第２板面部とを有し、前記第１板面部を前記第２板
面部に対して屈曲させて、前記分割線の終点に向かって徐々に狭くなる略Ｖ字状の隙間が
前記第１板面部と前記第２板面部の間に形成されたものであり、

前記通過口は、前記球送りユニットの外面に形成された開口であり、遊技球が通過でき
る大きさの第１開口と、遊技球が通過できない大きさの第２開口とが連続して形成されて
おり、

前記分割線を用いて前記隙間を形成している前記第１板面部と前記第２板面部のうちの
屈曲している前記第１板面部が、前記第２板面部よりも前記発射通路に近くなるように、
前記球送りユニットに前記金属板材を配置した

ことを特徴とする（例えば、段落０２７９、図５８～図６１等を参照）。